

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091600027		
法人名	社会福祉法人 和歌山ひまわり会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム 向日葵倶楽部 西ユニット		
所在地	和歌山県有田郡広川町南金屋662-1		
自己評価作成日	平成24年7月10日	評価結果市町村受理日	平成24年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai.gosi.p/i.nfo.nati.onPubli.c.do?JCD=3091600027&SCD=320&POD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が入居者の方と寄り添いながら共有した時間を過ごせるよう意識している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園風景の中、通学する小学生を暖かく見守りながら利用者一人ひとりがゆったりと毎日を過ごしている。職員は利用者の力を活かし寄り添う事に専念しており介護の枠を越えた楽しい時間を共有している。健康管理の面でも、法人の看護師との連携が密に行われており不安はない。又地域との繋がりが未だ十分ではないとの認識のもと、関係の深まりを目差し、取り組みを強化しており努力が実を結びつつある。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、西ユニット独自の理念を掲げている。 「寄り添い共に歩く」を実践できるよう、玄関に掲げている。	法人の理念をもとに、利用者と職員が一緒に考えて作りあげたユニット毎の理念をそれぞれ玄関に掲げている。管理者と職員は理念に基づいた年間の目標を各自発表し、年度末には必ず総括を行っており、理念の共有とその実践に事業所を挙げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動に参加している。 きしゅう君の家に登録し、登下校時の学生に声掛けを行っている。	事業所前は通学路であり、登下校時には小学生が立ち寄り交流の場となっている。地区の清掃活動や秋祭りにも参加している。又地区の要請による敷地内への外灯の設置や、水道設備の提供等を通して、地域の一員としての事業所の役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、グループホームの理念・認知症の理解、支援内容を伝え理解が得られるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、福祉課長・地域包括、保健師・民生委員・地区区長・家族に参加してもらいサービスの取り組み状況の報告及び話し合いの場にし、様々な意見をサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議の位置付けがしっかりとしており、参加者の協力を得て2月に1回の開催が確保されている。会議では利用者の生活の様子やサービスへの取り組み状況を報告し、話し合いを行っており、得られた意見をサービス向上に活かすよう迅速に対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは、運営推進会議以外でも連絡等を密に行うことで、連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議はもとより、町の担当者とは日頃から電話や直接出向く事で頻りに連絡をとっており、入居の相談等の機会に事業所のサービスの現況を伝えている。サービス向上への取り組みにつき一緒に考え、話し合う事により協力関係はより深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外研修に参加し、管理者・職員は身体拘束についての知識を持って取り組みに努めている。	外部研修や法人内研修への参加を通して、身体拘束となる具体的な行為につき、代表者及び全ての職員は正しく理解しており、その実践に向けては、あらゆる機会に認識の共有を図るべく努めている。夜間、早朝以外は玄関の施錠は行わず、スピーチロックについては職員間で特に注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外研修に参加し、管理者・職員は虐待についての知識を持って取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外研修に参加し、管理者・職員は虐待についての知識を持って取り組みに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書に基づいて十分な説明を行い、同意の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出された内容や、家族の方が来訪時に直接報告したり、電話連絡時に意見交換し、入居者の方の日常生活に反映させている。	運営推進会議が外部者への意見表明の機会となっており、面会時には管理者や職員が利用者、家族等の意見、要望を聞き取っている。直接の聴取が困難な場合には電話を有効に活用し、得られた意見、要望を運営に反映させる事を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング内で職員間で話し合いが出来る環境を設け反映している。	月1回の定例会議の他に、職員間では随時話し合いをしており、運営に関する意見や提案を積極的に上程している。意見や提案が反映される環境が整えられている事が事例の実現に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の資格取得のための情報提示や資格取得時の勤務等に考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修に積極的に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互実習を行ったことはないが、研修などを通じて、他の施設との交流し情報のやり取りを行ったり、他施設の見学、相互訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面会時思い等、話を聴くようにし、入居後においても不安のない生活が送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安や要望を聴く機会をすることで、円滑に利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時、本人・家族の思いを聞きとり把握し、他のサービスを含め連絡調整を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることはして頂き、出来ないことを職員が支援していくことを意識し実践に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、家族との時間を設けることで、外出等家族に協力していただけるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、ご家族様の要望があれば、入居前まで行かれていた散髪屋、スーパー、病院等に外出出来るよう支援に努めている。	入居後にこれまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族等との連携を密にして支援している。原則的には理容や通院については家族等に協力を依頼し、スーパー等へは食材の買い出しを兼ねて職員が同伴している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入しながら、利用者同士が円滑な関係が構築できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了(特養入所・病院入院)した後も、家族の相談に応じたり、入院先の地域連携室と連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの表情や言動を観察し、会議内で話し合い、把握に努めている。	全ての職員が利用者一人ひとりの思いや意向について関心を持ち、把握しようと努めている。入浴介助時に本人の思いが聞き取れる場合が多く、必ず記録に残し、職員間での情報共有を図っている。把握が困難な場合は、家族等の情報を参考に、本人の視点に立って話し合いを重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・親しい知人からの聞き取りによって情報収集し、その人の望む暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録等を活用し、一人ひとりの現状の把握に努めている。 有する能力に関しては、「出来ますノート」を作成し、活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集・アセスメントを行い、本人・家族の意向を聴き、介護計画を作成し期間に応じモニタリングを行い状態変化時は見直しを行う。	本人、家族等と話し合い意向を確認すると共に、医師、看護師等の関係者の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。6ヶ月毎の見直しを基本としているがモニタリングを通して把握した本人、家族等の新たな要望や状況の変化に応じて随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かい記録を残し、会議等で意見交換を行い、模索しながらではあるが、その時々々の最善策を実践に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて通院・買い物など必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出した際は、地域の人や登下校時の学生達と会話したり、四季を肌で感じるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、又は家族が希望する医院への受診が可能である。事業所は様々な医療機関との連携を取り十分な医療を受けられる様、支援している。	本人、家族等が希望するかかりつけ医の利用となっている。事業所嘱託医については2週に1回の往診があり、急変時には電話等で指示を受けるか職員が同伴し受診を支援している。又外部の医療機関については家族等が同伴しての受診であり、情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在中時には、報告・連絡・相談をし、また不在時の時間帯であっても常に24時間連絡を取れる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の治療プロセスや退院後のケアなどについて連絡を取り合うなど、地域連携室側との連携を図れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を十分に聞き、医師、看護師を交えて情報の共有を図り、連携を密にしている。本人にとって一番適切な紹介、または、今後重度化していった対応について適宜、家族と話をしている。	契約時に本人、家族等の意向を確認すると共に、段階ごとに本人、家族、かかりつけ医等の関係者と話し合いを重ね、方針の共有を図りながらチームで支援している。看取りをした事例はないが、家族等の要望に応じて、看取りができるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、発生時にはすばやく、各機関や関係者との連携が取れる仕組みをとっている。救命救急の訓練にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防の指導を受けている。又、災害時の対応マニュアルに地域への応援要請も加えており、協力して頂ける体制をつくっている。	年2回の夜間を想定しての避難訓練を行っており、利用者も参加し消防の指導を受けている。本年末には地域の協力を受けての訓練を予定しているが、地域との協力体制の構築については端緒についたばかりである。	地域参加型の訓練に加えて、避難場所の提供、物品や食料の備蓄等事業所が地域の為にできる事を共に検討しながら地域との双方向の協力体制を築く事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や人権は、誰もが持っている権利であり、人として、尊重されて当然のことである。職員は、利用者が、人格否定されるような声掛けをしていない。	利用者一人ひとりの人格の尊重の第一歩として、呼称は姓又は名前に統一している。利用者への言葉かけや対応については、職員間で常に検討し、是正しながら事業所全体で誇りやプライバシーの確保に取り組んでいる。個人情報の管理には特に注意を払い保護の徹底を期している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、利用者が本人の意図を示したり、自己決定出来る様な言葉掛けを工夫し、自由に表現できるように個別に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位ではなく、利用者自身が主体的に行動出来る様、支援し、体調や気分等に十分に配慮しながら利用者の希望を尋ねたり、相談しながらその人らしさを大切に過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の中には、お店に行き自分で着たい服を選び購入したいという方もおられるため、職員は付き添い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物を聞き出し、メニューに取り入れられたり、季節感を味わえるよう工夫している。調理の下ごしらえや後片付けを負担にならない程度に手伝って頂き、食事を楽しんで頂いている。	利用者の好みのものやプランターで栽培した野菜をメニューに取り入れている。調理の下ごしらえから後片付けに至る一連の作業を利用者と職員が分担して、楽しく、賑やかにやっている。季節に応じて中庭で食事をする事も楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表・水分チェック表を利用し各利用者の状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行い、利用者の状態に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うなどの支援を行っている。	チェック表により排泄パターンを把握し、基本的にトイレでの排泄を支援する事を通して、排泄の自立を目差している。利用者に応じてパッド等を使用する事はあるがおむつは使わないとの方針を職員間で共有し、堅持している。退院時におむつ使用であった利用者が排泄の自立に至った事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、飲食物の工夫や適度な運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば毎日でも入浴して頂ける。本人の希望に合わせて入浴を楽しめる様に職員同士連携を取っている。	曜日や時間帯の取り決めはせず利用者の希望に合わせての入浴である。友人同志で入浴するケースもあり制限はない。入浴を拒み勝ちな利用者についてはタイミングを見計らったの促しが功を奏している。入浴は楽しみであると共に、思いを素直に出せる場ともなっており、職員は貴重な機会と位置付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のパターンは様々である。一人ひとりの状態に合わせ、眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を一つにし、全職員が閲覧でき、服薬の目的やリスクについて理解している。服薬に変化があった場合は、利用者の変化に気を配り、細かい記録を残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活を送って頂ける様、その人の趣味や嗜好を知り、時には外気浴や外出等で気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、職員と共に買物・温泉・外食へと出かけたり、また家族等の協力を得て馴染みの床屋へと出かけられるように支援している。	食材の買い出しには日常的に出かけており、普段は行けない温泉や外食にも利用者の希望に沿って行先を決め、全員参加を原則に外出を実施している。理容や通院等の外出については家族等の協力が得られている。又利用者の様子から判断して、共に出かけ事業所周辺を散歩する場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には、自己にて金銭管理をされている方もいる。 利用者の能力に合わせた金銭管理を支援できるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば、電話を掛けるなどの支援を行っている。年末には年賀はがきを用意し、希望がある方には自ら書き、投函する支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「和」を基調とした空間を作り、温かみのある共用スペースにこだわっている。また、季節の花などもさりげなく飾り、皆で楽しんでいる。 空調の調整やテレビの音量等にも留意している。	ユニット毎に「和」「洋」を基調とした共用空間となっており、利用者は就寝時以外はほとんどの時間を共用スペースで過ごしている。和気あいあいとした雰囲気は居心地の良さの証しである。又、五感刺激については、全職員が日常的に注意を払い不快感や混乱をまねかないよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには和室を設けたり、食事用の椅子の他に2人掛け・3人掛けソファを設置している。その時々で利用者が居場所を選択し気の合った者同士で快適に過ごせる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や好みのものを自由に配置していただき、快適に過ごせるよう配慮している。	居室には馴染みの物や家族からの贈り物が思い思いに傍らに置かれ、自宅とのギャップを感じさせない工夫がなされている。全職員は共同生活の中での個室の意味の大きさを理解しており、プライバシーを大切にしながらその人らしく過ごせる居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を保障した上で、利用者が自由に動ける様自立した生活ができるよう配慮している。		